

日刊 動労千葉

83, 3, 22

No. 1295

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

館山支部 職場集会 ひらかる

館山支部職場集会は、三月十日十三時より運転区講習室において、組合員約三〇名が参加して開催されました。

川名支部長、四点にわたり提起

冒頭川名支部長は、あいさつの中で、①特退補充、とりわけ指導員の補充について、②家族組合結成にむけた取り組みについて、③中江選挙闘争の取り組みについて、④3・16労働者集会、3・27三里塚集会へのとり組みについて、の四点にわたり、支部のこの間の取り組みと今後の方針を提起しました。

川名支部長は特に、指導員補充が今日まで長びいた原因について報告しました。

すなわち、当局が今日までの慣行を一方的に破棄し、助役試験合格者の登用に固執したためであり、指導員問題は停年延長、乗務員運用合理化攻撃のなかで高令者対策として絶対ゆずれない問題として支部が取りくんだ経過を説明し、こうした当局の不当な介入を許さない組織体制の確立を訴えました。

当面の取り組み を報告 水野副委員長

つづいて本部を代表して水野副委員長は、①緊急11項目をもってする国鉄労働運動解体攻撃の現状、②三里塚二期着工攻撃と反対同盟にかけられている分裂攻撃の実態と本質、③3・16労働者集会のもつ意義、④中江選挙闘争を勝利することの意義と必勝にむけた取り組みについて報告を行いました。

水野副委員長はこの中で、「職場規律の厳正」に名をかりた入浴規制攻撃との闘いは、国鉄労働運動解体攻撃に反撃する闘いであるとともに、いまや全面対決にたちいたった国労への当局とその

手先き労働革マルを打倒・一掃する闘いとして重要であることを明らかにしました。更に、三里塚闘争を闘う動労千葉の基本的立場は、「空港絶対反対・農地死守・実力闘争」の反対同盟の基本原則を正しく堅持して闘いぬいている敷地内農民を支え連帯して闘うことにあることを明らかにし、3・27三里塚全国総決起集会への全力結集を訴えました。

指導員問題等々で活発な討論を展開

集会で出された主な意見は、①今回の指導員補充問題は、当局の意のままになる者をつくり出すための組織破壊攻撃として受けとめるべきだ。②当局が組合員に対し、個別に助役試験受験を勧誘している。組合側の対応をもっと厳しくすべきだ。③指導員の職務内容を明確にさせ、誰でも入れるようにしなければ高令者対策として意味をなさない。④厳しい情勢の中で、職場を一本にまとめるためにも転勤者の対策を強化すべきだ。⑤情勢が厳しければ厳しいほど、コミュニケーションの場をもっと多くもつようにしてほしい。⑥反対同盟分裂という状況の中で、党派抗争にまきこまれることなく、労働組合としての原則と自主性を堅持して運動を続けることを要望する。というものでした。

職場集会は活発な討論の後、川名支部長がまとめを行い、中江選挙闘争、3・16労働者集会、3・27三里塚現地集会（正午・三里塚第一公園）への支部一丸となった全力の取り組みを確認して、成功裏に終了しました。

動労千葉
時間内入浴規制粉碎！
タレコミ革マル分子嶋田追放！
3.27三里塚総決起！
中江選挙必勝



組合員の追及に一言も答えられない当局者（津田沼電車区浴場）

当局現認取制と あらゆる出来た・嶋田

動労千葉・国労の完全共闘のもと千葉の検修職場は職場一丸となって入浴規制粉碎闘争が燃え上っている。ところが、あのタレコミ・コロビ屋革マル分子嶋田誠が、当局の尻尾にくっついて、入浴闘争に敵対し、あわよくば、門司・東京はじめ全国で実行している「現認↓厳正処分要求」を狙って職場をうろついていた。職場の全仲間糾弾され逃げ出した。（入浴闘争詳細は次号）

糾弾され、すてぜりふで逃亡する嶋田（3月14日）